

防災公開講座(しずおか防災地域連携第31回土曜セミナー)

平成 22 年 10 月 23 日(土) 10:30 から
静岡県地震防災センター ないふるホール

テーマ 「地域との交流を活かした看護師教育の推進～災害時シミュレーションを通し看護学生の防災力を高める」

講師 静岡県立大学看護学部 金澤寛明、尾崎紘史*、上田真仁、酒井見名子

* 静岡県立大学大学院看護学研究科

※ 聴講者数 60名



静岡県立大学看護学部の学生が中心に平成12年頃に想定される東海地震に備え、災害時の初期救命処置技術・応急手当技術の普及啓発活動を通して地域住民とコミュニティづくりをめざしてつくられた防災ボランティアクラブ『防'z』は、大学の防災訓練や消防団との合同訓練、さらに毎年12月の「地域防災の日」には地域住民に向けて救急法の講習会をおこなっている。そのためにまず消防署で上級救命講習を受講することが義務づけられている。最近、新聞やテレビなどに活動が紹介されるようになり、多くの地域から講習会等に呼ばれるようになってきた。

今回は災害時シミュレーションを大学内でおこない、問題点・課題を探った。想定は平日、大学講義時間中に地震が起こり、幸い火災などは免れたが交通機関が麻痺し、帰宅困難学生の保護(1〜3日)が必要となった(食料等はたまたま防災訓練用に用意されていたものが残っていた。トイレはテント付き簡易トイレを居住領域近傍に設置)。男子学生2グループ(4名×2)2泊3日、女子学生1グループ(10名×1)1泊2日に分かれ、食料、水、寝袋を分配し、グループごとに行動することにした。5分ごとに自記式タイムスタディ(行動や感じたこと、問題点を記入)さらにバイタルチェック(体温・血圧・脈拍・呼吸)一定時間毎に測定記録した。

食料はカロリー一面では必要を満たしていたが満腹感は得られず、空腹感が続いた。排泄では臭いがテント内に充満する問題があり、また他人に排泄音を聞かれるのを嫌がる傾向が見られた。今回のデータで最も考えさせられたのはこのような状況下でも(それが3日間で解放されるとわかっている)、学生達は身体の清潔を求め、風呂やシャワーなどを希求した事である。この点は再検討したい。

日頃の救命処置の練習とその成果発表ともなる地域防災の日に地域住民に対する救急法の講習を通して、学生達は研鑽を積んで防災力を高めている。その中からハザードマップの検討、100円均一店の品物で防災セットは作れないかななどの発展的な活動がみられるようになってきた。

平成21年度から災害看護学が必修として看護教育に組み込まれ、その重要性は増したが義務となったものにどのように学生達が取り組むか見守りたい。